ウィークリー・マーケット・レポート

東京市場ウィークリー・レビュー／2026年10月12日（月）～16日（金）　発行：ていネコの投資ノート

1．今週のサマリー

■ 日経平均は週末65,324円、前週末比3,706円安（▲5.37%）と5週ぶりの大幅反落。直近4週の上昇幅の約4分の3を1週間で失った。半面TOPIXは4,066ポイントで▲0.95%にとどまり、騰落率の差は4.4ポイントに開いた。

■ 主因は米9月CPIの上振れによる追加利上げ観測の再燃と、AI向けクラウド大手コアウィーブの社債急落（利回り15%近辺）が招いたAI投資の資金調達不安。15日は3,318円安と歴代3位の下げ幅を記録した。

■ 売りはAI・半導体の値がさ株に集中。非鉄金属▲12.51%、電気機器▲6.76%に対し、医薬品＋6.05%、保険＋4.79%と内需・ディフェンシブは逆行高。33業種中20業種が上昇しており、TOPIXの小幅安はこの二極化の裏返しである。

■ 中東情勢の緊迫でWTIは101.70ドル、週間＋10.7%。株安を受けた質への逃避で米10年債利回りは5.07%へ低下したが、ドル円は158円台で横ばいと、円は買われなかった。

2．主要指標の週間騰落

指標	週末水準	前週比	騰落率	備考
日経平均株価	65,324.29円	▲3,706.63	▲5.37%	週高値68,710.99／安値64,092.74
TOPIX	4,066.00	▲38.81	▲0.95%	13週移動平均線は上回り維持
NYダウ	52,002.41ドル	＋347.46	＋0.70%	主要指数で唯一の上昇
S&P500	7,659.44	▲152.10	▲1.95%	年初来では＋11.9%
ナスダック総合	26,140.03	▲1,226.14	▲4.48%	6月下旬以来の大幅な週間下落
SOX指数	11,137.29	約▲1,380	▲11%超	8日続落、約18年ぶりの連敗
ドル円	158.34円	＋0.03	＋0.02%	週間レンジ 約157.6～159.0円
ユーロ円	177.38円	＋0.04	＋0.02%	週間レンジ 約176.5～177.9円
日本10年国債	2.930%	▲0.080pt	—	15日に一時2.89%へ急低下
米2年国債	4.708%	▲0.081pt	—	10月利上げ観測が後退
米10年国債	5.073%	▲0.169pt	—	14日に一時5.32%まで上昇
WTI原油	101.70ドル	＋9.85	＋10.72%	6営業日続伸、約1カ月ぶり100ドル台
NY金	4,189.12ドル	▲27.18	▲0.64%	一時4,219ドル、原油高で伸び悩み

この表で目を引くのは株式内部の歪みである。日経平均の下げの大半は値がさのAI・半導体株によるもので、16日の寄与度では東京エレクトロン1銘柄で＋134円。指数が数銘柄に支配される構造が、下落局面でも増幅装置として働いた。

もう一つは、金利低下が株価を支えなかったことだ。米長期金利の0.17ポイント低下は本来グロース株の追い風だが、今回は利上げ観測の後退ではなく信用不安による質への逃避が主因で、米国債と高利回り債のスプレッドは14日に3.25%前後へ拡大した。前週まで続いた「金利上昇でも買われるAI相場」から、相場の性格は明確に転換している。

為替も効いた。5%超の株安でもドル円は158円台で横ばい。日米金利差は縮まらないとの見方が円売り地合いを支え、円高による採算悪化という二重の打撃が回避されたことは、輸送用機器＋4.53%の逆行高の一因でもある。

3．日本株：週間レビュー

値動きの経緯

12日（月）はスポーツの日で休場（日経平均先物は69,150円）。13日（火）は米半導体株安を映して1,253円安、ソフトバンクGが8%超下落する一方、原油高で海運・鉱業が買われTOPIXは小幅高だった。14日（水）はASML決算の材料出尽くしで33円安。15日（木）は米CPIとコアウィーブ不安が重なり3,318円安、売買代金は10.1兆円に膨らみ一時64,000円に迫った。16日（金）は898円高と7営業日ぶりに反発したが、戻せたのは下げ幅の3割弱にとどまった。

業種別騰落（週間・東証33業種）

上昇上位	騰落率	下落上位	騰落率
医薬品	＋6.05%	非鉄金属	▲12.51%
保険業	＋4.79%	電気機器	▲6.76%
輸送用機器	＋4.53%	金属製品	▲5.72%
サービス業	＋3.91%	ガラス・土石	▲5.11%
卸売業	＋3.72%	機械	▲2.63%

上昇20業種・下落13業種と、数では買われた業種のほうが多い。下落率首位の非鉄金属はフジクラ・古河電工などデータセンター向け電線株の比重が大きく、実質的にはAI関連の指数である。

個別銘柄の話題

キオクシアHD（285A）は9月末の分割後高値19,750円から一時32%下落し、時価総額はプライム市場6位まで後退した。アドバンテスト、東京エレクトロン、レーザーテック、イビデンも15日に揃って急落。半面、ベイカレント（6532）は中間決算と新中期経営計画でストップ高・上場来高値、良品計画（7453）も上場来高値を更新した。武田薬品（4502）は新薬発売で新高値、大末建設（1814）は上方修正・増配・自己株取得でストップ高となった。

投資主体別は10月第2週（5～9日）分が公表され、海外投資家は現物1兆4,318億円の買い越しと2週連続の買い越し、個人も買い越しだった。急落をはさんだ今週分は23日公表となる。プライムの売買代金は13日7.96兆円、14日7.45兆円、15日10.14兆円、16日7.66兆円で、急落した15日だけ10兆円台に膨らんだ。

4．日々の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	ドル円	10年債
10/12(月)	休場	—	休場	158.6	休場
10/13(火)	67,777.52	▲1,253.40	4,110.67	158.2	2.995%
10/14(水)	67,744.29	▲33.23	4,096.78	158.1	2.985%
10/15(木)	64,425.95	▲3,318.34	3,999.34	158.0	2.925%
10/16(金)	65,324.29	+898.34	4,066.00	157.8	2.930%

4営業日のうち3日が下落し、うち1日で週間下落幅の9割を生んだ偏った週だった。

5．米国株・為替・金利

米国市場も同じ断層で割れた。週間でダウが＋0.7%と上昇する一方、ナスダックは▲4.5%、SOX指数は▲11%超と8日続落し約18年ぶりの連敗。震源地のコアウィーブは週間▲25%と売られた。中国半導体CXMTの技術進展も競争激化懸念を誘い、資金はAIから景気敏感・ヘルスケアへ移った。

金利は米2年債4.708%(前週末比▲0.081pt)、米10年債5.073%(同▲0.169pt)。ウォーシュFRB議長が16日に10月会合の方向性へ言及せず、利上げ観測は後退した。国内では植田日銀総裁が「基調的な物価上昇率は2%にかなり近づいている」「2%を超えて上振れるリスクがある」と述べ、日本10年債利回りは2.930%と0.080ポイント低下した。

ドル円158.34円、ユーロ円177.38円とほぼ横ばい。気掛かりなのは16日のシカゴ日経平均先物が63,925円(大阪終値比1,595円安)で引けたことだ。同日の米株安は未消化で、週明けは下押しスタートの公算が大きい。

6．高配当・優待銘柄トピック

配当では、プリモグローバルHD(367A)が年間配当の増額を発表しストップ高、SHIFT(3697)が初配当を決定。大末建設(1814)とMORESC(5018)は業績・配当予想を上方修正、川上塗料(4616)も増配を発表した。減額は星野リゾート・リート(3287)の分配金359円減額。

優待は新設がオンデック(7360、11月末基準で300株以上に1万～5万円の電子ギフト)、記念がヒマラヤ(7514、創業50周年)。拡充は東名(4439、年1回から年4回へ)、カワサキ(3045、3年以上の長期保有優遇)、バイク王(3377、デジタルギフト化)。縮小・廃止はチームスピリット(4397、ポイント半減)、IDOM(7599、27年8月末で終了)、東武住販(3297、TOB成立が条件)。

10月の権利付最終売買日は10月28日(水)、権利落ち日は29日(木)、権利確定日は30日(金)。10月確定の高配当例はナレルグループ(9163)4.80%、ノバック(5079)4.63%、アトラエ(6194)4.38%、学情(2301)4.30%(いずれも9月24日時点の予想利回り)。11月の権利付最終売買日は11月26日(木)。

7．翌週の注目日程

曜日	イベント	注目点
19日(月)	中国7～9月期GDP・9月主要統計、日・第3次産業活動指数、米NAHB住宅市場指数	シカゴ先物の1,595円安をどこまで消化できるか
20日(火)	日・20年債入札、米住宅着工、中国LPR、独ZEW、決算＝GM、ネットフリックス	AI以外で企業収益が持ちこたえているかの確認
21日(水)	日・9月貿易統計、英CPI、米20年債入札、決算＝メタ、IBM、テスラ、TI	最大の焦点はメタのAI設備投資計画と採算性
22日(木)	米新規失業保険申請、米景気先行指数、決算＝ディスコ、P&G、WD	ディスコの受注はAI投資の実需を測る試金石
23日(金)	日・9月全国CPI(予想＋2.1%)、日米欧10月PMI速報、決算＝ファナック	上振れなら12月利上げ観測で円高・株安要因

日銀金融政策決定会合(10月29～30日)とFOMCはいずれも再来週。今週はSQがなく、次回は11月13日となる。

8．総括と来週の見通し

今週の下落は業績悪化ではなく、AI投資を支えてきた資金調達の前提が揺らいだことによる。コアウィーブの社債が額面の7割台まで売られたことは、AIインフラが借入とハイイールド債に依存して拡大してきた構造を再認識させた。一方でTOPIXは▲0.95%にとどまり13週移動平均線を上回る。崩れたのは市場全体ではなくAIテーマであり、医薬品・保険・自動車が受け皿として機能した。週足終値は26週線(65,672円)を下回ったが、中期トレンドの転換を論じる水準ではない。

- 65,000円の攻防。16日の反発は自律反発の色彩が濃く、週明けは64,000円前後を試す可能性がある。ここを維持できるかが当面の分岐点となる。
- 21日のメタ決算がAI相場の試金石。設備投資計画と収益化の道筋が示されれば半導体株の戻りが続き、不十分と判断されれば売り圧力が再燃する。
- 23日の全国CPIと原油・クレジット。CPI上振れは12月利上げ観測から円高要因、WTIの100ドル定着と高利回り債スプレッドの3.5%接近は追加調整の圧力となる。

【脚注】SOX指数の前週比(約▲1,380ポイント)と日経平均・TOPIXの騰落率の差は公表値をもとにした筆者算出、「4. 日々の推移」のドル円は東京時間午後の概ねの水準で筆者による概算です。10年債は15時時点の新発10年利付国債利回り。
日本10年国債の前週末値(3.010%)は日本証券業協会、週末値(2.930%)は報道ベースで集計時点が異なります。WTI・NY金は期近限月の終値です。出典が不確かな数値は以上のとおりです。
本レポートは生成AIを用いて公開情報を整理・執筆しました。出典：日本経済新聞、日経平均プロフィル、株探、みんかぶFX、OANDA証券、外為どっとコム、財経新聞、ダイヤモンド・ザイ、QUICK Money World、楽天証券、マネックス証券、日本証券業協会、AP通信。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。